

メディアコミュニケーション演習/

Media Studies in English と日本語

担当教員: 志柿浩一郎 Instructor: Koichiro Shigaki

Image Creator: Kittisak_Taramas | Credit: Getty Images/iStockphoto

今日の予定

- リフレクションのレビュー、アナウンスメント
- ちよいとまあ先生のぐち（英語で）
- **グループ活動:**発表の内容を詰めていく作業

風のうわさ

とりま確認できた噂 色々な授業で

- 英語の歌を歌わせるとは何事よ
- 授業は面白くない、眠いっす
- 起承転結がわからない。先生は話すのがへたくそ（起承転結は忘れる。まじで。中学校にいる国語の先生みたいなこと言うな）
- 話したいこと言ってるだけっしょ（いや、正直人前で話したくない。文句言うヤツの前でなんで時間使うの？それだったら早よ帰って、アクロとダンスリハビリしたいって。）
- とりあえず落単しょ。リフレクションも確認してねえ、できないことすんな！（チェックして、疲れてる）

東洋大生や先生達に正直にいいたい

- Do not take away my energy maaaaan!
- やる気がお互い失せる雰囲気ならない？なんか態度もそうだし、授業コメントやリアペ見ると先生はそうなっちゃう
- とりあえず勉強しろな。大学にいる間になんかスキルはみにつけておけ（語学含む）
- 英語に関しては、あんたらが嫌いだろうが、先生はやる理由がある（嫌でも構わんけど、5年先のこと考えておけ）
- 授業も大学もいやなら、大学ってこなくてもいいんよ。無駄だと思って文句いうより、金稼いで好きなことしてるほうがよくねえか？（そこが先生理解できん。ここにいる学生も教員も）

外国語による 授業科目数 (大学院含む)

2013年度 2021年度
223科目 ▶ 1,631科目

全体の 11.6%



外国人および海外学位取得 教員数 (大学院含む)

2013年度 2021年度
180名 ▶ 338名

全体の 43.8%



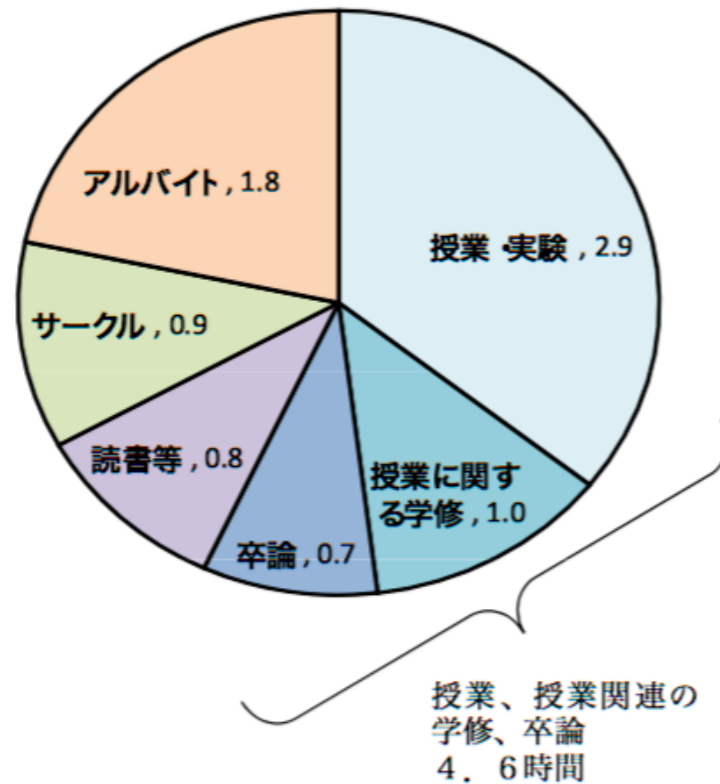
- 日本人教員ではなく「外国人等教員」としてカウントされている → 海外大学での学位を習得か1年以上の海外での在住経験（印象: 数字のため）
- 志柿先生と別に、語学教員担当がいる（その先生が基本語学担当。大人の事情でしていない場合も）
- 先生は英語の授業、英語でやる授業やるために雇用されたお思った。結果語学教員ではない。前の先生の後任
- とりあえず不人気の先生が英語でやる授業やゼミを担当していたりする（メディア業界あがりの先生達などの例外を除いて）
- 先生の文句を言ってどうするのかは知りたいところ。

- メディア・情報関係の知識と、語学身につけておいたほうがいいと思うで
- アプリ開発とかプログラミングもいいけど、多分皆やるようになってバブル状態なると思う。それ考えながらニッチな市場見つけるといい
- 授業や先生嫌でも、もらった資料や示された参考文献を使用して独学をしていくと、就職活動中なんか中身あること言えるようになる。

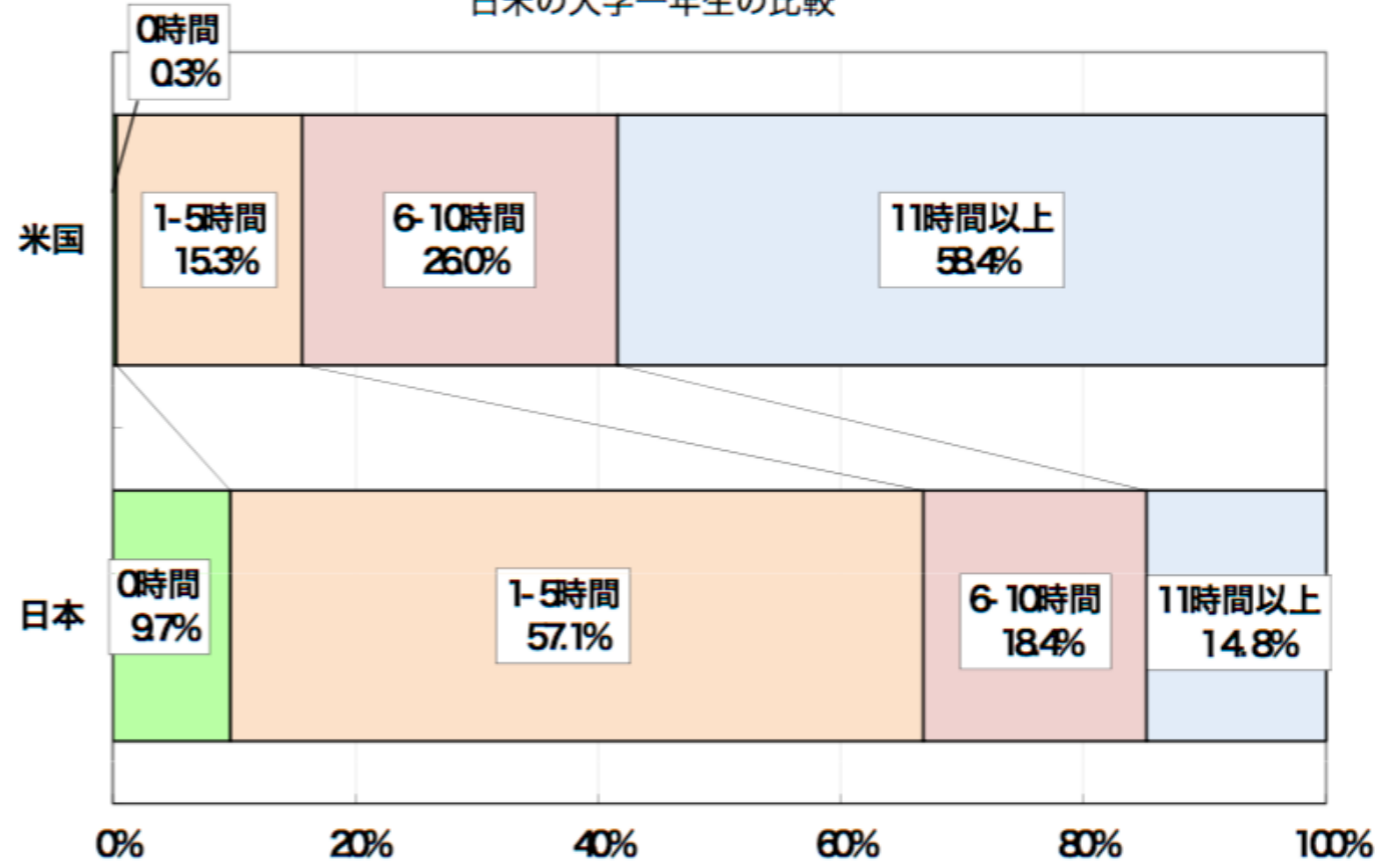
学生の学修時間の現状

我が国の学生の学修時間（授業、授業関連の学修、卒論）はその約半日の一日4.6時間とのデータもある。
これは例えばアメリカの大学生と比較しても少ない。

学生の活動時間の分布 計 8.2時間

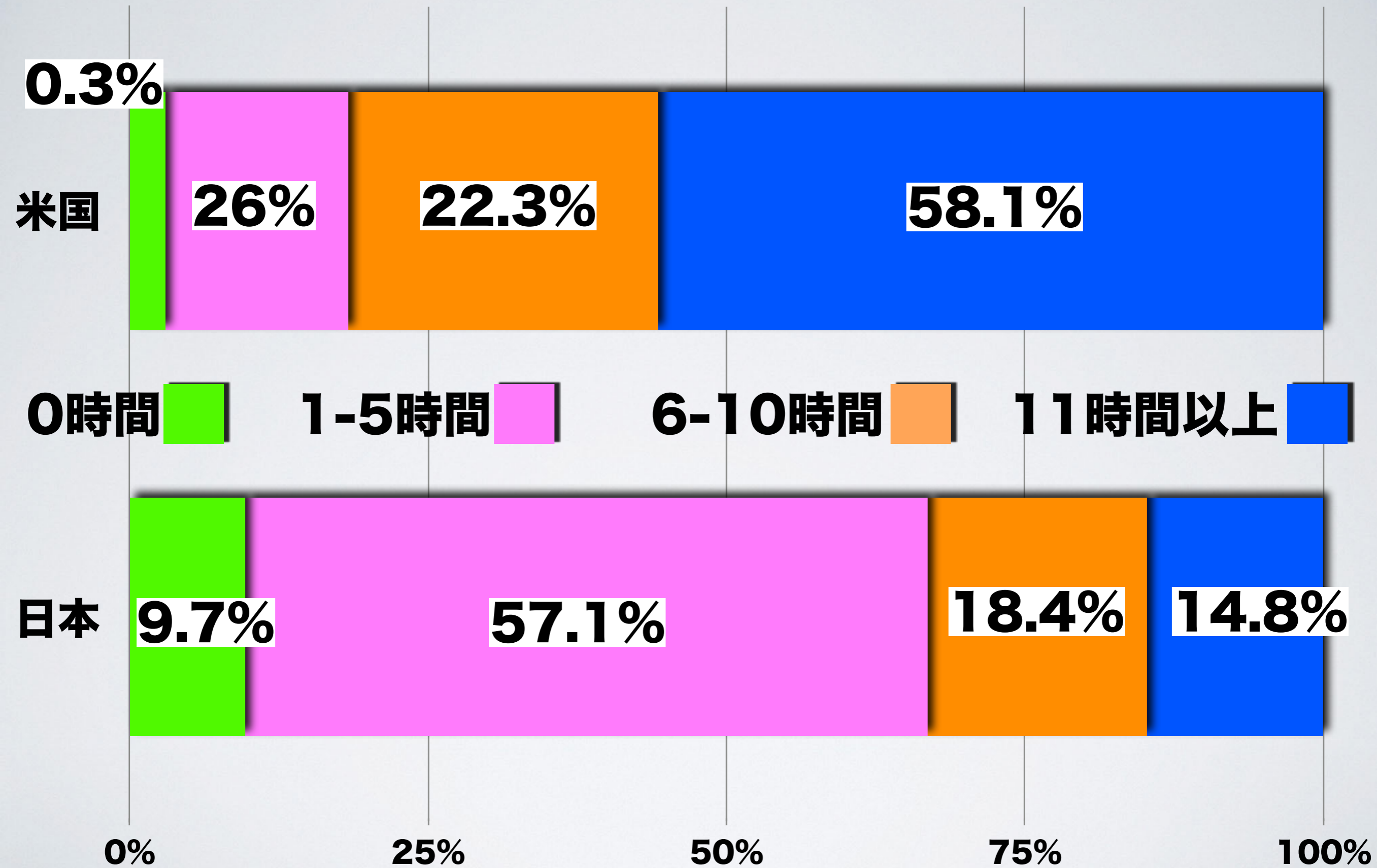


授業に関連する学修の時間（1週間あたり）
日米の大学一年生の比較



出典 東京大学 大学経営政策研究センター (CRUMP) 『全国大学生調査』2007年、サンプル数44,905人 <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>
NSSE (The National Survey of Student Engagement)

1週間あたりの授業に関連する学修時間

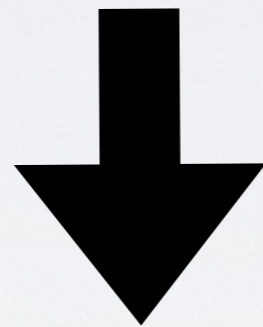


City College of San Francisco

San Francisco State University

前者:2年制大学 (コミュニティー・カレッジ)

後者:4年制の師範学校、職業訓練型大学 (地方公立同等)



東北大学に比べて・院生と学部生

勉強しない・小手先

それでも何もいわれないことにびっくり

**日本って勉強 = ダサいって
思ってる節あるよな**

先生の5年後の予想

- ジョブ型が普通になるので、大学で何もしてませんでした = 誰も雇わない、起業でも誰も信頼しない
- 正直、東洋大だけではなくて、私大のやつ要らないってなりそう
- 日本は島国なので、まあ経済はよろしい状況にはならない
- 先生より上の世代は、口で言うことって逃げて終わりか、先生みたいに先が見えなくて途方にくれる
- サバイバル方法が、独学でしかなくなる→大学の資源をどれだけ活用するか

現実

- GAFAなど、大卒関係なくジョブ型で雇用
- 情報格差は普通になってる
- 大学は一応きちんとした基礎教育を提供していた場合は、底辺層の底上げ、底辺から上層階級への階段みたいな位置づけ程度に
- 若い人ってというか、先生の世代含め。「今をいきる」「自分のしたいことを」「楽しく」「仲間を」とかなんかそんなフレーズに乗っかることができた人はいいけど、それ以外は文句いって底辺層へ
-

学科の先生達は

- 何とか底上げをとということで、メディア体感プロジェクト立ち上げ、キャリア塾立ち上げ、検定宣伝（一部の学生だけ恩恵）
- 一部の先生達はよくわからない。勝手に迷走している人もいれば、嫌われてる先生、自分のことだけして放置、本当に情報プログラミングの授業で簿記教えるとか？
- 手とり足取り教えるタイプの先生と、諦めて放置タイプの先生がいる（真ん中の先生もいる）
- 先生達が学生に対してどうしたらいいかわかんない人もいる。
- 学科全体どうしたらいいか、空回りしている感じ。受験生増やそうって数字に躍起になってる面もある

志柿の場合

- 自分はダメなところからスタートして、就職氷河期世代でまともな職つけなかったから、全うな仕事はしたいし、教材をあと3年がかりでつくりたい
- 好きな話しはしていない。大学の教育方針、学科の意向に従いながら、必要だと思われることを試行錯誤（まだ2年目）英語能力はあんまりいかせそうにないので、どうしようかなという感じ。メディア関係の知識は評価されてない
- 東洋大では半分、教育業務諦めかけてる... 基本大学の先生は研究業績等でしか評価されない
- 一部とは理解しつつも、全ての学生が...自分の17年前と重なって見えて、なんか頭弱いというか、良く言えば世の中に素直。絶望的になってしまう: 勉強しない、無気力、スキルなし、無駄な反骨心だけ、中身なし、仲間とつるむ、表面だけ真面目、無知の自覚なし（あっても本当の意味での）、自己中（これはいいけれど）、クリティカル思考していないので大学プログラムのカモになってるようにも...etc

とりあえず自分に+になるように勉強しろ（小手先じゃなくて。資源利用して、基礎スキル獲得しておけ）

英語の歌を唄う (録画して先生に提出)

**This is must! It is required!
You hate to sing? I don't care. At least,
move your mouth and say something**

締め切り: 学期末

グループ活動

ゼミ 10回目 (06月28日)

ゼミ 11回目 (07月05日)

ゼミ 12回目 (07月12日)

ゼミ 13回目 14回目は予備日

テーマが具体化したら

決めたテーマで...

- 問題点や主要な論述する点を設定する（おおよその主旨を決める）
- 仮の結論（仮説）が出せるようであれば出す（人文系は出しづらい）
- 概要や概論がわかるものを探す（そこから全体像を理解する）
- 引っかかる点、自分の問題意識が何かを考える。それに近い問題を論じている論述を探す
- 具体的な発表内容をつめていき、役割をきめていく



評価方法（備考）

備考

- 1.自分の考えたことをなるべく言う
- 2.「先生の期待しそうな答え方」というのは考えない。当たり前障りのことも言わない。（先生の授業はつまらない、面白くしろと言われて吹っ切れた。昨年、東洋大の先生や基準にあわせようとしたけど。表面的なことや優等生みたいなこと言ったら印象は悪くなるので、評価は下がる可能性あり。ただし、とりあえず頑張ったってことで、悪くも良くもない「C」評価)
- 3.自分の考えを言う場合は、筋が通るようにすること。= 論理的にまとめる=理由、説明、根拠を示す

発表内容の肉付けをする

1. 発表の構成を考える

2. メインポイント、主張したいこと、論じたいこと、自分の考えを言う（～思いました、考えました…は小学生のように聞こえるから先生としては辛い = 評価ダウン）

3. 面白くする（先生が皆さんのような学生から言われたこと…面白くするって何やねん？先生お笑い芸人じゃないのだから？あんたの面白いって基準なに？）

4. 先生の基準: オリジナリティ、ヘエ～そうなんだって思える、なんか意外、聞いてみようって思えるもの

5. 何もなく、単にこなして、大学で過ごすなら、正直あなたのためにはならない。何もしないは、最悪。大学に対して文句言う資格なし。